八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 2頭曳新墾プラウ	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
- ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☒ 耕耘用 ☐ 調製用
- ☒ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
- ☐ 原動機具 ☒ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素
- ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☐ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y054

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

耕起用、単用新墾プラウ。新墾プラウは、ねん転型の曲面によってれき(堰)条を滑らかに持ち上げ、緩やかに捻って完全反転させる。そのためれき(□)条の起き上がりを防ぐ延長板を付けることもある。これにより開墾地や永年草地のように表層に潅木等の雑物や強固でマット状の根圏を栽培の障害にならぬように下層に埋込み(腐熟化させる)、表層には新鮮な下層土を持ち上げるが、下層土が作物に合わせて酸度矯正や肥料分補充が必要になる場合が多い。一方、再墾プラウは、円筒状の曲面を使ってれき(□)条を破断するように急激に持ち上げ、急速に放擲・反転する。これにより一般畑作物を植えた熟畑では、表層の狭雑物のすき込みも重視するが、れき(□)条の表面積を大きくして風化作用を促し、腐熟や害虫等を枯死させることに重点を置いている。 **注：□は「堰」を充当**

利用経過収集記録意義等

製造者名などの本体記載事項は発見できないが、明らかに国産品。
1941～43(昭和16-18)年に戦時下で規格化された統一形式プラウの可能性が高い。

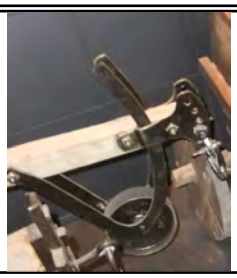
仕様書_解説等

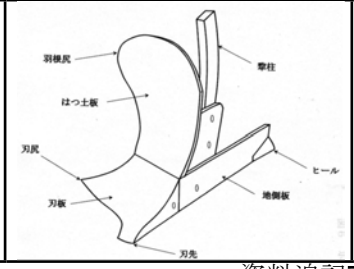
仕様　未計測

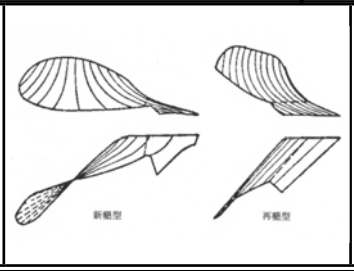
全体図写真1：現在の展示状況、2：1985年調査時の写真。
参考図1：標本プラウの定規車とクレビス部
2：犂体；ボトムの各部名称
3：新墾と再墾プラウの曲面図＝真上から見た新墾プラウは羽根尻の裏面が見える。
4：新墾と再墾プラウのれき(□)条反転図
再墾地には硬盤：犂底盤層ができる

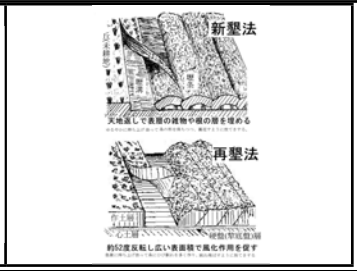
右に全体図

外観特色関連図等









資料の所在

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編